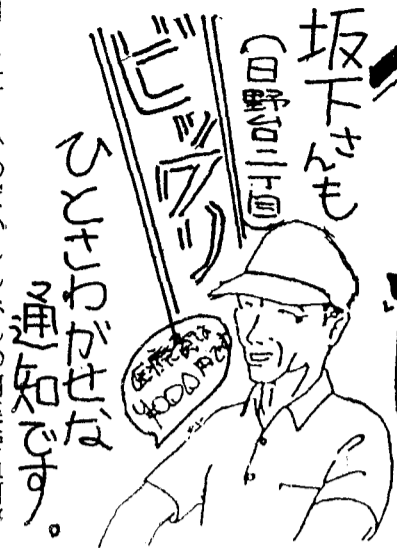


ひのたしんがん

発行
ひのたしんがん
編集局
81-6175



坂下さんも

(日野台二丁目)

ひのたしんがん
通知です。

四月三十日ひのたしんがんの編集委員河野さん、水野さんは日野台二丁目協力会会員の坂下さんのお宅を訪問しました。坂下さんは日野市の保険課から本人のかかった医療費の通知を受け取ってビックリ、くすりを飲むのを控えているとの話を聞いたからです。出していただいたおもちをたべながらなごやかに懇談しました。坂下さんは朝六時におき、散歩することを日課とし、一回に歩く時間は、三、四十分、健康について丹念に記録もつけています。八十一才には見えないほど元氣な方です。坂下さんのもらった通知には、二万円とありました。坂下さんも医者にかかるなといういやがらせかなあと思ったのですが、いままで血圧の薬をのんでいたのがこの際自分の体のためそうとおもい薬をひかえたそうです。奥さんの三重子さんの話によるとこの通知を読んで以来、坂下さんは、ここ二か月薬をのんでいないそうです。水野さんもこのような通知を受け取った時あまりよい感じがいしなかったそうですが、「薬を無駄にしないように」との予防線との解釈をしたそうです。

今日、医療と私たちの生活とは、深く結び付いています。そうしたなかで自分の医療費、おさいふからでていく一部負担金も含めたいへん気にかかる所です。特におさいふの小さな高齢者にとっては医療にかかりにくくなってしまうのではないのでしょうか。「私たちは昔から随分苦勞をしてきたのよ。高い保険料も払ってきたでしょう。当然の権利よ。」は河野さんの意見です。市役所からの通知も「あなたは、これだけしか医療を利用してません。もっと健康にきをつけてください。お金とのち、健康の問題はべつです。保険料は先にいただいていますのでお氣遣いなく。」ぐらいの心配りは当然ではないのでしょうか。

事務 八戸

春を告げる

可憐な

カタクリのさ花



四月十五日、コスモス班の健康チェックがありました。今月は、新しい方がこれこれコスモス班も十名になりました。一に養生二に薬。お互い大事にしましょうとお茶を飲みながら検査結果についての反省会です。誰となくカタクリの花が裏山に咲いているという話になり珍しいのでみにいこうという事になりました。畑の畔道をいきますと、「菜の花、ニラみつばなど、美味しそうね」と語りあいながら十五分くらい坂道を下りました。すると、

作品

日野診療所

午後 ゲーム 椅子にかけ八人が円陣つくって
風船パレー 五十二回まで
継続できて 大喜び
先週は普通 余技で指導して下さる
老医師に 風格のある字だと
ほめられてうれしくなる。
ワipro学校で勉強した指導員に
自分史 かきあげるならワiproを
といわれはります。
ひるやすみ
七十三才となる私と同年配の人
六人とOTと 計八人
一本杖 二本杖 四本杖の人
もう十年になるひともある。
静かに話し合う
四月十三日 衛生会日野支部の
お花見には炭鉱節だ。
上田 菅野 野田
「回復は、年単位に考えて あせらずに」と
「回りは、年単位に考えて あせらずに」と
「回復は、年単位に考えて あせらずに」と
「回りは、年単位に考えて あせらずに」と

と道の脇にカタクリの花が目止まり余り
の珍しさに梓の中にはいりました。「はいっ
ては、ダメよ」うしろから声がかかり、よく
ると立て看板がかかっていました。
せし下ると広い場所一面にカタクリの花が
咲いていました。こんなに沢山咲いているの
なら規則をまもればよかったと心のなかで詫
言しました。交通の便の悪い日野台の裏山にこ
んな美しい自然植物があるとは思ってもよらぬ
ことでした。

こころの中のモヤモヤもいつとなくほぐれ
は爽やか足取りも軽く楽しい一時でした。

日野台在住 水野 一子

88日野市憲法記念事業

五月二十九日 社会教育センター

これからの医療はどつたる

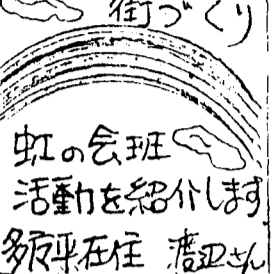
講師 朝日健二さん

	土	金	木	水	火	月
午前 9:00 ~ 12:00	宮地	宮地大石	佐々木 (小児科医)	大石 (小児科医)	小林 (11:30)	宮地大石
午後 2:00 ~ 4:00			佐々木		宮地	
夜間 5:30 ~ 7:30		上田		宮地		鈴木

衛生会 日野台診療所体制表

健康だよ!

手をつなごうかたりあう
健康と平和な
街づくり



虹の会班
活動を紹介し
多原平在 浩辺

私たちの班は、昨春、私が診療所の肥満教室に参加した事がきっかけとなり健康に美しく老いたい、という願いをもとに「都民生協虹の会」のメンバーを中心に週一回、団地の集会所で体操をはじめた事から班づくりに発展しました。

メンバーは、四十代から六十代まで、すべて女性で輝かしき専業主婦八人のあつまりです。でもメンバーは実に見事に健康に注意している人、分かっている人も、ダメな人、こっちの方が圧倒的多いとさまざまです。血圧の高い人は、余り

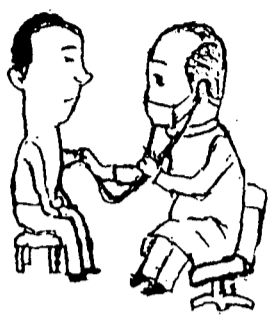


いないのですが、皆が一番きにするのが塩分チェックですね。先日のチェックの時も「あら、こんなたかいの。ああそうだ昨日の四月十七日の国民大集会でいろいろ食べたものねえ」とか、「あつ今朝すじこ 食べてきちゃった。御飯にのせてたべるとおいしいのよねえ。」などなど。チェックの度にそれぞれの食生活を反省させられています。

飽食の時代といわれる今日、美しく老いる事はなかなか難しいようです。でもお互いに励ましあい、刺激しあいながら気長に努力していきたいと思っています。

ストライク

日野台診療所
初代所長
大石先生
紹介です。



私は、日野台診療所は二度めの勤務は、昭和六〇年、五月の新築になり現在の診療所は協力会の組織作りになります。前所長の久田医師が個人的所有を主張したために裁判闘争となり医師を除く職員がストライキを宣言したので、健生会立川相互病院の援助と診療所一共立一発足当時の理事山本俊夫氏の援助により家の提供があつて今日の日野台診療所があることになりました。現在の診療所で我々内科の医師は大いにたすかっています。さて私は、民医連にも高齢退職の制度ができて退職後嘱託として働かせて頂いています。現在のところ週四回午前みの勤務です。

現在所長の宮地先生は小児科の専攻事が出るように祈っています。

大石 誠

昭和四十五年四月二十六日生
昭和三十六年健生会 入職
昭和四十年
日野台診療所初代所長就任

診療所

診療所物語
No.1
元日野台四丁目在任
野原大

診療所の三周年の企画として「診療所と私」を企画しました。第一回は、診療所設立期に在任された野原さんにお話を伺いました。思い出せば、今から約四十年、そうした中で日本で始めてといえる密着した雰囲気をもつ診療所として「セトルメント」が設立されたのである。当初は、「あの所をつくり、育てよう」という根柢を、当時の町会議員の村山秀三氏をはじめ、地域住民の皆様の要求運動により町政を動かされた。二区ル通に診療所の建物をたてた。このような住民パワーは、健康保険の割戻しを禁止するなどのいまでは全く信じられないだともっています。

大して広くない待合室ではあ、診察のお日満員で世間話ランだった。その背景には、無医村だった日野台では子供の病氣等手遅れに、なから診察順番を待っている。野原さんにも医院があつて往診を頼んでも医者自身が過剰労働のため、残念ながら久田医師二代目所長に就任し所有権をめぐって閉鎖の始末であつた。不幸な事が度々つづいた。

今日、協力会、地域住民の皆さんの支持に支えられ、患者と医


野原 康夫
一九八八年五月五日

二月物語

日野市民会館において
六月九日午後六時半より
わらび座 「二月物語」の
公演がおこなわれます。

チケット 大人 三千五百円
小人 二千円
お求めは、事務 八戸まで

作 原由子 演出 津島忠 作曲 新庄敏弘
いのちというもんが土ん中から
ムクムク育ってゆくさまを、
赤ん坊の時から知ってるお前らだ。
その中でもいちばん大切な
人間のいのち



わらび座